



長野県看護大学学報



オープンキャンパス大学説明の様子 看護学部3年生2名が司会を担当しました。

令和6年度 オープンキャンパスを8月3日(土)に開催しました

令和6年度長野県看護大学オープンキャンパスを8月3日(土)に開催しました。大学説明、模擬授業のほか看護体験コーナー、基礎医学系の実験体験コーナー、在学生との交流、教育・研究内容の紹介、個別進学相談など、多くのブースを設けました。本学に関心を持った多くの高校生や保護者670人が来学され、スタッフ用ポロシャツを着た在学生がはつらつと案内をしました。教員も日ごろの教育や研究について様々な工夫をして紹介しました。参加された高校生から、「本学への関心が強まった」「頑張って受験勉強に励みたい」、保護者からも「娘の看護の道にすすみたいという強い志を支えたいと思った」などの感想が寄せられました。

広報・交流委員会 渡辺 みどり



母性・小児看護実習室 看護体験コーナー

令和6年度オープンキャンパス



地域・老年看護実習室 看護体験コーナー

私は、これまでお世話になった大学に何か貢献したいと思い、オープンキャンパスに学生スタッフとして参加しました。当日は地域・老年看護実習室の体験コーナーを担当しました。参加される高校生の皆さんは、緊張しながらも質問に来てくれたり、展示物を興味深そうに眺めていたりして、入学前の新鮮な気持ちを思い出すことができました。質問にいられた高校生とその保護者の方がすっきりした表情でお礼を言って帰られるのを見て、「私も少しは大学の力になれたのかな」と思い、嬉しかったです。領域別実習が迫っている時期に、希望に満ちた参加者の皆さんと関わることができ、実習に向けて更に気が引き締まりました。

看護学部3年生 久米 弥桜 さん



実験体験コーナー

私は在学生との交流のコーナーを担当しました。大学での勉強や生活について高校生の方たちとお話をしました。みなさん最初は緊張した様子でしたが、お話をするうちに様々な質問をしてくれ、こちらも楽しい時間を過ごすことができました。保護者の方からも質問をいただき、不安や疑問に学生目線からお答えすることができました。看護学生は実習や課題など大変なことも多くありますが、仲間とともに同じ目標に向かって取り組むことができるのが長野県看護大学の魅力だと思うのでその部分をお伝えできてよかったと思いました。高校生のみなさんの進路選択の一助になれていたら良いなと思います。

看護学部3年生 深澤 美結 さん



学長挨拶



在学生との交流



学内の行事



公開講座



9月14日(土)、第1回公開講座を開きました。「きく・はなす・つながる——コミュニケーション」のテーマで田中広美准教授が講演しました。人とのつながりが希薄化しているといわれる現代社会において必要とされているコミュニケーションに関して、3つのきく(聞く・訊く・聴く)、伝え方、アサーティブな自己表現、人とつながるためのコミュニケーション、こころの健康などについて講演しました。67名の参加者が耳を傾けました。

広報・交流委員会 浦野 理香

キャリアガイダンス

学生委員会では1年次からキャリアガイダンスを実施しています。1年次には、4年間を見通したキャリア形成についての講義を行い、2年次には、本学卒業生をお呼びし、在学中の様子、就職活動、現在の仕事への取り組みなどについてお話しいただいています。3年次には2回あり、夏休み前には、職場で管理的業務を担当されている方々から、職場の現状、本学生への期待、実習への心構えなどについて講義をしていただいています。また、夏のインターンシップや、公務員試験なども含めた就職活動全般について説明しています。12月のガイダンスでは、スケジュールの確認、選考対策など目前に迫った就職活動についてお話ししています。最終学年では、同時期に実習、就職活動、卒業研究、国家試験対策を行わなければなりません。早め早めの対策が大事です。就職支援員は、進学も含めて、みなさんの希望進路決定から合格・内定までお手伝いしています。困ったことがあったら、いつでもご相談ください。



3年次12月キャリアガイダンスの様子

学生委員会 就職支援員 花岡 秀樹

図書館のホームページが新しくなりました



10月より、図書管理システムの変更に伴って、図書館のホームページが新しくなりました。利用者サービスの向上を目的としてシステムの変更を行いました。資料の検索は検索項目が増え、資料を見つけやすくなりました。また、ログインすると貸出の延長や予約も行えるようになりました。利用者からは「本の表紙が表示されてわかりやすい」「延長ができて便利」などの声をいただいています。

司書 清水 満里子

鈴風祭



上田さん：写真左側
黒岩さん：写真中央
小島さん：写真右側

今年度の鈴風祭は8月31日（土）、9月1日（日）の2日間行いました。新型コロナウイルスの規制が緩和されてから2回目の今回は、地域の皆様と看大生がともに楽しめる鈴風祭を目指したテーマの下、限られた時間と人員の中で準備を進めました。また直前には台風接近の報道を受け、急遽構内での開催に向けた大幅な配置変更を行い、スタッフ一同安全を最優先に奔走しました。そんな中でも当日は多くの看大生や地域の皆様にご来場いただき、大いに盛り上がりました。今回の開催にあたり携わっていただいた皆様とのご縁は非常に貴重であり、本学が地域に愛される大学であるということを実感した瞬間でもありました。ご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

鈴風祭実行委員長 看護学部2年生 小島 葵さん

台風の影響により、開催が危ぶまれていましたが、無事2日間終えることができ良かったです。今年は、地域の団体にステージ参加を依頼しました。地域の方々やこどもたちが参加することで、親御さん方が多く見に来てくださり、学祭が盛り上がりました。また、大学と地域との繋がりを深めるきっかけになったと思います。地域の方々と交流するきっかけになり、学内の人だけでなく、様々な人と鈴風祭というイベントを作り上げることができました。ご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。



鈴風祭副実行委員長 看護学部2年生 上田 葉名さん



学祭前には台風の影響があり、学祭を実施できるかと不安がありました。無事開催することができ、当日は多くの来場者にお越しいただくことができました。看護学生だけでなく、普段は関わることのできない地域のこどもから大人までたくさんの方々に関わることのできる良い機会となりました。私は、受付でスタンプラリーを実施していました。そこでは、スタンプラリーに参加された方や模擬店、展示を笑顔で楽しんでいただける様子が見られ、学祭が実施できたことをとても嬉しく思いました。

鈴風祭副実行委員長 看護学部2年生 黒岩 紅葉さん

「これで本当に引退になっちゃうんだよ。」鈴風祭に向けた一日練習の終わり、先輩から伝えられた言葉。当時の私は、踊れない自分が嫌で、教えてくれる先輩に申し訳なくて練習は辛いものになり、もうダメだとすら考えていました。しかし、この言葉が私に、鈴風祭のよさこいステージが大好きな先輩の大事な引退演舞であることを思い出させてくれました。そしてその日から気持ちを入れ替え、もう一人の1年生の学生と朝から晩まで、とにかく練習をしました。私たちは、先輩に笑顔で引退演舞を終えてほしい、その一心でした。鈴風祭当日、熱気と拍手で満ちた1時間は一瞬で過ぎていきました。とても楽しくて、何より先輩たちの笑顔を見ることができて幸せでした。まだわからないことが多いけれど、挑戦と経験を積み重ね、さらによさこいの魅力を見つけたいです。



樋井さん：写真右側

よさこいサークル代表 看護学部1年生 樋井 萌菜美さん

鈴風祭 地域の皆さんと

鈴風祭の2日間、病気をもつお子さんやご家族と看護学生との交流会の一環として、「はなまるグッズ販売」を行いました。このお店には、お子さんが描いたかわいいイラストがプリントされた焼き菓子、コーヒー・紅茶、ポストカード、Tシャツが並び、6名の学生がお店のお手伝いをさせていただきました。2日間とも、大勢の方に来店していただき、お店は大盛況でした。また、学生はお子さんたちと一緒にコンサートに行ったり、かき氷を食べたり、射的をしたりして、一緒に鈴風祭を満喫することもできました。お忙しい中、時間をかけてグッズの準備をしてくださったおうちの方や、楽しく交流をしてくださったお子さんたちに心より感謝いたします。



小児看護学分野 高橋 百合子

市町村保健師採用合同説明会



鈴風祭の初日、8月31日（土）の午後に、学生・卒業生等を対象とした県内市町村保健師採用合同説明会を開催しました。折しも台風10号が日本列島を直撃する勢いで、県内各地も大雨に見舞われる中、複数の自治体が防災対応のため急遽参加を見合わせましたが、辰野町、上松町、北相木村、南相木村、天龍村、大桑村、王滝村および長野県の8自治体から合計18名の担当者にご来学いただきました。各自治体のブースを訪れた相談者は延べ53名で、積極的に質問をしながら自治体での保健師活動に関する

情報を得ていました。自治体担当者からは「真剣に話を聞いてくれた」「目標を持って頑張っている学生が多かった」等の感想が聞かれ、学生のインターンシップへの参加につながった自治体もありました。学生・卒業生および自治体の双方にとって有益な本説明会の意義を再確認し、今後も継続して開催する必要性を実感しました。

学生委員会 御子柴 裕子

ホームカミングデー

ホームカミングデーを8月31日（土）の午後に開催しました。昨年度までは「卒業生あつまれ企画」として実施していましたが、今年度から名称も新しくなり、新卒者だけではなく、今までの卒業生が会する場として企画し、長野県看護大学同窓会（鈴風会）にも後援していただきました。当日は、迷走台風による悪天候の中、14名の卒業生が参加してくださいました。少人数ではありましたが、近況報告をじっくり共有することができ、フリートーキングでは途中席替えをしつつ、参加者間で十分に歓談することができました。久しぶりに卒業生の楽しそうな姿を見ることができ、うれしく思いました。この企画は毎年実施します。卒業生のみなさん、来年以降の参加を心よりお待ちしております。



学生委員会 竹内 幸江・井本 英津子・白井 史・横山 仁美



大学の活動紹介



JICA草の根技術協力事業「ポカラ市における妊娠期から乳児期までの切れ目のないケア推進事業」本邦研修

長野県看護大学は、ネパールの母子保健事業を支援し15年が経ちました。このような中、9月2日（月）から約3週間、9名のネパール研修員が駒ヶ根市を訪れました。本学では、9月3日（火）に研修会が行われ、大塚学長より「看護職の専門能力の向上に向けて」の講義と、昨年度から地域・在宅看護学分野が支援している母子健康手帳について質疑応答が行われました。講義、質疑応答共に簡単な内容ではありませんでしたが、研修生は真剣な表情で研修に参加し、活発な意見交換や質疑の場面も見られました。



看護実践国際研究センター 国際交流部門 望月 経子



看護実践国際研究センター 専門能力開発支援部門 活動報告

長野県の看護の充実と発展を担う看護職が、継続的に専門能力を開発できるための支援を行うことを目的に、令和6年度から活動しています。病院、高齢者介護施設、診療所、訪問看護ステーション等に勤務するジェネラリスト看護師を対象とした看護実践能力向上ワークショップでは、帰宅願望のある認知症患者への関わりなど、臨床現場で起きている様々な事例検討から課題を見つけ、解決に向けた具体的な対策について、講師と共に検討し、好評を得ています。他に、特定行為研修やキャリア支援に関するオンライン公開講座も行います。

看護実践国際研究センター 専門能力開発支援部門 渋谷 美香・井本 英津子

東海大学付属諏訪高等学校高校生来学

10月11日（金）、東海大学付属諏訪高等学校理数科グローバル&サイエンスコースの1年生の皆さんが本学で研修されました。これは、生物学をテーマとした課題研究を実施する生徒に向けた高大連携特別講義として、令和2年度から毎年おこなっている事業です。当日は座馬がチンパンジーの睡眠をテーマに講義をおこない、また吉村隆准教授による大学紹介や、在校生との交流、学食体験、学内見学もありました。生徒の皆さんは校内を楽しそうにめぐりながら、大学進学後の研究や学修、キャンパスライフについて、肌で感じていただいたようでした。



社会・人類学分野 座馬 耕一郎

新任教職員紹介

数年前まで大学で学んでいた立場でしたが、この度は大学生活のサポートをするという形で関わらせていただくこととなりました。皆様の学びと学生生活が少しでも豊かとなるように精一杯努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

教務・学生課 主事 太田 穰 (令和6年10月着任)

昨年3月に地元金融機関を定年退職となり、そのまま再雇用で働いておりましたが、娘もこの大学で学ばせてもらい身近に感じていたところ、臨時的任用職員の募集がありお世話になることになりました。右も左も分からぬ中、短期間となりますが少しでもお役に立ちたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

教務・学生課 主事 下平 悟 (令和7年1月着任)



写真左側：下平 悟
写真右側：太田 穰

● まちづくりサークル ●



『SDGs パーク
コドモミライ広場』での
「フシギな森のナゾトキ
宝探し」の様子
主催：駒ヶ根青年会議所
共催：JICA駒ヶ根・
長野県看護大学

な方と交流を深める良い機会になりました。このように、まちづくりサークルの活動は地域の健康促進と魅力発見につながっています。

まちづくりサークルは、「地域の皆さんとつながる」ことを目的とし、大学の学びと地域の声を活かした健康教室などの企画を通じて交流しています。

健康教室では、楽しく運動できるよう工夫し、家庭でも実践しやすい内容を提供しています。最近SDGsパークに長野県看護大学の代表として参加させていただき、手洗いの大切さを伝える体験ブースを担当しました。大勢のこども達や保護者の方に参加していただき、ブラックライトを使って手洗い前後の菌の違いをお見せすることで、正しい手洗い方法とその重要性、また洗い残しの多い部分について知っていただくことができました。また、年齢問わず色々な方と交流を深める良い機会になりました。このように、まちづくり



健康教室の様子

まちづくりサークル代表 看護学部2年生 近藤 咲紀 さん

● 信州駒ヶ根ハーフマラソンに参加して ●

私が信州駒ヶ根ハーフマラソンに参加しようと思ったきっかけは、友人からのお誘いでした。これまでずっと駒ヶ根で育ってきましたが、来年度から県外に出てしまうため、最後の駒ヶ根を楽しもうと思い、エントリーしました。

ハーフマラソンを走ったのは今回が2回目でしたが、体力の自信は全くなく、とにかく時間内に完走することを目標に走りました。当日は体力や気力との戦いでしたが、地域の皆さんの応援や、一緒に参加した友人に励まされ、完走することができました。

駒ヶ根の大自然を感じながら、美味しいお蕎麦や果物を食べながら走ることができ、駒ヶ根の良さをたくさん感じられたハーフマラソンでした。

看護学部4年生 加藤 優奈 さん



加藤さん：写真右端
木下さん：写真中央

駒ヶ根市出身のため信州駒ヶ根ハーフマラソンは毎年応援していました。数年前から父が参加しており、いつかは自分も出てみたいと思っていました。来年から就職先の関係で駒ヶ根市を出ることとなり、約20年間住んだこの街での思い出をつくりたいと思い、友人の加藤さん（同郷）に声をかけ、ハーフマラソンに挑戦しました。バイトや勉強の合間を縫って2人で練習をし、当日を迎えました。

駒ヶ根市に長く住んでいますが、ハーフマラソンで走る道はいつもと違うように見え、とても良い景色だと思いました。駒ヶ根市はいい街、いつか必ず帰ってきたいと思いながら何とか完走することができました。途中辛い部分もありましたが、友人や学校の後輩の応援、地域の方の温かい声を聞いて元気をいただき、最高の思い出となりました。

こんな自分でも完走できたので色々な人に挑戦してもらいたいです！

看護学部4年生 木下 矢耶子 さん

Kandaigram 2024.8 ~ 2024.12



8/23~8/25 にっぽんど真ん中祭り

「しなの大和&長野県看護大学
よさこいサークル鼓魂」合同チーム
U-40大会 優秀賞受賞

10/29 ハチ食品(株)様 寄贈品送呈式

ハチ食品株式会社様からレトルト食品
780食が寄贈され、本学にて送呈式が
開催されました。同社社長 高橋様から
本学学生自治会長、副会長が代表し
受け取りました。



10/25 防災訓練



10/26 ふれあい花壇撤去作業



10/30~10/31 生協学生委員会ハロウィン企画



10/31 動物慰霊祭



12/1 秋の一斉清掃



12/18 卒業研究発表会 (小児看護学分野)

INFORMATION

2024年度 第2回公開講座

「褥瘡(床ずれ) 研究の意外性と醍醐味~『多循環障害説』の樹立と新しい早期診断法の開発~」

日時 2025年2月15日(土) 13:30~15:00 (受付13:00~)

会場 長野県看護大学 大講義室(教育研究棟3階)

講師 基礎医学・疾病学分野 喬 炎 教授(退任記念講演)

申込不要・入場無料

30周年記念事業

長野県看護大学(看護学部看護学科)は平成7(1995)年に開学しました。

3月7日(金)に記念植樹を行います。他の事業について詳細は追ってお知らせいたします。



〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <https://www.nagano-nurs.ac.jp/>



長野県看護大学学報
No.59(令和7年1月)

編集・発行
長野県看護大学 広報・交流委員会